

インターンシップ講習生から感想をいただきました

研究推進部 研究推進室

インターンシップ講習生が続々と農村工学研究部門にやってきています。

新型コロナウイルスの影響で大変ななか、施設工学研究領域施設保全ユニットと水利工学研究領域沿岸域水理ユニットにて講習を受けた方から感想をいただきました。

[施設工学研究領域施設保全ユニット]

(A 小平さん)

私が今回のインターンシップで最も印象に残っていることは、ユニットの方々が度々おっしゃっていた「誰でも簡易かつ手軽にできる測定法・診断法が必要」ということです。大学の講義などでも施設の老朽化の現状について学んでいたつもりでしたが、実際に現場を見学したり試験のお手伝いをさせていただくと、開水路の壁面が植生に覆われている、人が入って調査することが難しい小口径のパイプラインが多いなどこれまでの方法では調査の難しい施設であったり、一定以上の練度が調査に必要とされたりと、すべての施設を調査・維持管理していくには多くの課題が存在しているということがわかりました。この2週間で学んだことを今後を活かしていきたいと思います。

(B 樋口さん)

私はこの二週間のインターンシップで、付着強度試験や漏水音のデータ収集といった様々な研究を体験させていただきました。今年はコロナの影響により、大学の講義はすべてネット配信形式のものになったため、実験を実際にやる機会がありませんでした。そのため今回の体験はすべて新鮮で大変有意義なものでした。また、ユニットの方々や企業の方のプレゼンを聞かせてもらって研究の必要性や実際の応用方法を知ることもできました。

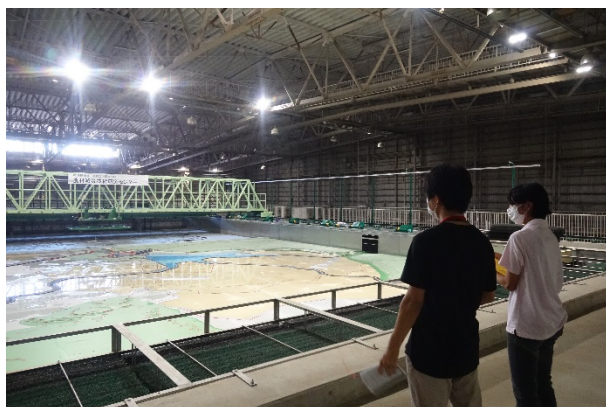


(左から) 付着強度試験の準備, 圧縮試験, 漏水探査ロボットの漏水音取得実験

[水利工学研究領域沿岸域水理ユニット]

私たちは、農研機構の2週間のインターンシップで、ため池の環境モニタリングや、管水路の漏水を見つける手法について学びました。さらに、研究者の方々と様々な話ができたこと

は非常に刺激的で参考になりました。ここで学んだ、データから現象を想像することや、データ処理の手法、社会人生活のアドバイスなど、全てを生かしていきたいです。大学の報告会でも農研機構を薦めていきたいと思います。2週間ありがとうございました。



[受け入れユニットより]

施設保全ユニット

農業用水路補修材料の供試体作成から付着強度試験、圧縮・割裂試験、漏水探査ロボットによる漏水音取得実験など、様々な実験をサポートしていただきました。お疲れ様でした。注意深く作業しても実験には必ず一定の割合で失敗が発生することや、研究はそうした失敗にもめげずに、様々な工夫をしながら根気強く挑戦する仕事であることを体験していただけたと思います。今回の体験が、今後の卒業論文研究への取組みや、卒業後の進路検討などに少しでも役立てば、ユニットとしてもうれしい限りです。また学会などで会える日を楽しみにしています。

沿岸域水理ユニット

現地調査と水理実験における、サンプル採取からデータの分析までの一連の作業補助を依頼しました。一部、困難な作業もあったかと思いますが、向学心にあふれ、常に前向きに取り組んでいました。また、学生さんからの質問は、時として核心をつくことがあり、研究室の活性化につながりました。